

# 謹賀新年

## 新年のご挨拶

久留米市社会福祉協議会  
会長 中島 年隆



謹んで新年のご挨拶  
を申し上げます。

皆さまにおかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、本会の地域福祉活動の推進に対し、格別のご理解とご協力を賜りましたことに、厚く御礼申し上げます。昨年も全国各地で地

震や大雨などの自然災害が相次ぎました。令和7年8月豪雨災害では、福津市や古賀市に職員派遣や物資等の支援を行い、熊本県八代市へは市と協働し、災害ボランティアバスを運行いたしました。本年も行政や関係団体と連携して災害ボランティアセンター運営体制の強化、地域の防災・減災に向けた取り組みを進めてまいります。物価高騰や雇用不安、孤独・孤立といった社会課題も依然として人々の暮らしに影響を及ぼしており、複雑で多様な相談が増えております。本会では、重層的支援体制整備事業をはじめ、地域住民や関係団体など

様々な分野の皆さまと連携し、ともに支え合う地域づくりに努めております。

令和8年度からは、「第2期くるめ支え合うプラン」がスタートいたします。このプランは、誰もが自分らしく幸せに暮らせる地域をともにつくっていく「地域共生社会」の実現をめざし、市と一体的に策定しています。本会といたしましても、人と人、人と地域の多様な資源とのつながりづくりを進め、「支え合うところあふれるまちくるめ」の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 第53回久留米市社会福祉大会

### 記念講演

「地域に根ざした“居場所”が育む子どもの未来」

#### 講師

筑紫女学園大学 人間科学部人間科学科  
心理・社会福祉専攻

准教授 大西 良氏

今回の  
報告記事



大西先生は大学勤務に加え、小・中学校のスクールカウンセラーとしても勤務されています。数年前から地域での「子ども食堂」や「ママカフェ」の活動、公園での夜回りや「まちの保健室」などにも取り組まれています。

講演では、生きづらさを抱える若者たちと向き合った経験を通じて、支援活動に必要な心構えを、心理学や社会学の知見を交えながら分かりやすく伝えていただきました。

「親の依存先も少ない現状があります。自立とは、たくさんの依存先があつて、適度に支え合いつながりながら生きていくことです。」など、子どもたちと地域の関係の大切さを紐解きながら、地域に根ざした居場所づくりのヒントをいただきました。



記念講演の様子

